

関連項目：教育活動プラン③

人との関わり方の育成

目的

本校の児童は、純朴で素朴なものが多いが、人との交流が苦手な面もあり、トラブルを起こしてしまう一面もあります。そこで、人との関係作りの経験を積ませることにしました。

内容

● グループワークの活用

指導員を招いて専門の立場から、各学級や学年のようすを観察してもらいます。そして、その学級や学年の実態を学級担任と共に分析します。その後必要なスキルを身につけさせるグループワークを企画し、人との関係づくりの経験を発達段階に応じて学ばせます。その頻度や内容も、学年の実態に対応して計画します。

● 異学年交流のなかよし班活動

1年生から6年生までを20の縦割りグループに編成し、なかよし班とします。この班で、月1回の割合で昼休みを利用して一緒に遊びます。6年生がリーダーシップをとりスポーツやゲームなどの計画を立て、自主的な活動をさせています。鬼ごっこやドッジボールなど外遊びが中心ですが、教室でカルタ取りのゲームをしたり、体育館でボール運動をしたりと活動は幅広く行われます。

また、運動会では、なかよし班対抗種目を児童会の指揮で行います。本年度は、フラフープの運搬競争を行いました。ひとつの目標に向かって活動することで、上級生が下級生を助け、下級生が上級生の指示に従いながら協力していくという行動が自然にできるようになります。



【仲よし班の編成の様子】

● 友だちのよいところ見つけ(人権の木)

積極的に友だちのよいところを見つめ合おうという活動です。よい行いや自分だけが知っているよいところをカードに書いて、全校生に見てもらいます。書かれた子は、その内容もうれしいのですが、書いてくれた子に対しても好意を感じます。こうしてお互いが気持ちよくなれることを願っての活動です。実際、ロビーに飾ったカードを熱心に見ている子が何人もいます。そして、だれかにほめてもらえる喜びを経験し、さらによい行動への意欲をわかれます。

● 特設の人権・同和学習

人との関係づくりは、行動として表れる現実の結果です。しかし、その根底にあるのは人権尊重の認識と行動でなければなりません。そのため、裁量の時間を利用して各学年の発達段階に応じた人権・同和教育を実施しています。およそ各月ごとに1時間実施することで、6年間にわたって児童に正しい人権意識を学ばせています。難しくても、お互いの人権を尊重することが、人とのかわりをスムーズにすることもできるということを理解させていきたいと考えています。



【ロビーに飾られた人権の木】

成果

こうした取り組みをすることで、児童間の交流範囲が広がり、学級や学年を超えての友だち関係を作る児童が多くなっています。そのため学校を楽しみにしている子が多いようです。不登校になる児童が少ない状況が保てています。